

横瀬川ダム建設に伴う
環境影響について
6. 廃棄物等

予測結果

予測項目	発生の状況・処分再生利用の状況	環境保全措置
建設発生土	建設発生土については、山林保全措置の実施や、購入骨材の使用により、発生量の低減が図られており、発生量は約290,000m ³ と予測される。これらは貯水池右岸側に計画されている建設発生土処理場において処理される。	—
コンクリート塊	コンクリート塊については、工事用道路等の撤去に伴い、約100m ³ の発生が想定されるが、中間処理施設へ搬出し再生利用を行う。	—
アスファルト・コンクリート塊	アスファルト・コンクリート塊については、道路の付替の工事等に伴い、約50m ³ の発生が想定されるが、中間処理施設へ搬出し再生利用を行う。	—
脱水ケーキ	脱水ケーキについては、購入骨材の使用により発生量の低減が図られており、濁水処理による発生量が約2,000m ³ と予測される。	○
伐採木	伐採木については、山林保全措置の実施や、購入骨材の使用により、発生量の低減が図られており、貯水予定区域、建設発生土処理場等の工事における樹木の伐採及び除根により約31,000m ³ が発生すると予測される。	○

環境保全措置及び評価結果

予測項目	環境保全措置
建設発生土	—
コンクリート塊	—
アスファルト・コンクリート塊	—
脱水ケーキ	発生量の抑制、再利用の促進により、廃棄物としての処分量の低減を図る。
伐採木	伐採量の抑制、有価物としての売却やチップ化等により再利用の促進により、廃棄物としての処分量の低減を図る。



【評価結果】

事業者の実行可能な範囲内で出来る限り回避又は低減されている。